

名所

亦自然ニ勤ル處之人有ハ、其氣質之汚レテ能ク削ル人ハ、其志之厚キ事舉而可仰所ナリ、

〔日本鹿子十四〕同國前○豊中名所之部、

規玖キ 郡也、高濱長濱など、云有也、赤坂と小倉の間也、

是よりや天の河原につゞくらん星かと思ゆるきくの高濱

葦島シノ 當國かんと云所の東海上一り計也、無雙の景地也、

柴津山シツ 笠結島 古は大歌所の御歌

柴津山打出てみれば笠結の鳥こぎ歸る棚なし小舟

鏡カミの山 宇佐の宮井 文字の關

柳の浦 此浦にて、左中將清經身をなげむなしくなり給ふ所と云、

〔豊前國志一下〕門司が關

此古跡、今漁夫家あり、應永戰亂記に、甲宗の濱と記せり、長門の赤間が關と違向ひにあり、關所の跡詳ならず、上の山を筆立山と言、甲宗の社あり、古歌多く有、略す、

〔西遊雜記一〕或説に、文司ヶ關の所は、往古は長門の地なりしに、神功皇后の御時に大に地震して大波來りて、今の如く地裂て海と成しと云、

〔豊前國志四下〕耶馬溪

右同書國記に云、樋田の先一里、羅漢より五丁計前左の方川に近所、大岩數十本欵てる所有、其高き事數十丈、或は八九丈、他郡にて未見大岩也、向にも又あやしき大岩あり、

此耶馬溪の名は、賴山陽が名けしと云、此大岩の間、今に赤松の大木立交り、眞に近國無雙の絶景の地也、

〔山陽遺稿七〕耶馬溪圖卷記